

見つめよう、その本当の意味を。関西学院とクリスマス

枝 川 豊

キリスト教の暦では、クリスマスから新しい1年が始まります。創立120周年を迎えた関西学院の1年を振り返ると、春には聖和大学、短期大学が新たに関西学院のファミリーに加わり、幼稚園から大学院までを有する総合学園となりました。夏には高等部の野球部が70年ぶりの甲子園出場を決め、120年のお祝いに花を添えました。甲子園での校歌斉唱。皆さんの記憶にもまだ新しいところでしょう。この関西学院の創設者はご存じの通り、Walter Russell Lambuth 博士です。

しかし、キリスト教主義の、関西学院につながる者として忘れてはならないのは、キリストの誕生がなければ、Lambuth博士の宣教の業もなく、この学院は存在しなかったということです。クリスマスは、イエス・キリストの誕生をお祝いすると同時に、関西学院とはどのような学校なのかを考えるときでもあらと私は思っています。

イエス・キリストの誕生の物語はご存じかと思いますが、イエスはきらびやかなイルミネーションの輝く、華やかな雰囲気の中でお生まれになったのではなく、苦心してなんとかヨセフとマリアが頼んで得た、まことに粗末な馬小屋で誕生されました。これこそがクリスマスを、そして、イエスの生き方を象徴するものです。イエスの誕生は光の当たらない、世の中の不安や苦しみの中にある人々に希望の光をとすための神様からの賜物です。私たち関西学院に連なるものは、世間の華やかさのみに目を奪われるのではなく、このクリスマスのときにもう一度関西学院のあるべき姿を見つめたいものです。

私には忘れられないクリスマス礼拝があります。岡山県の長島にあるハンセン病療養所、邑久光明園家族教会の元患者さんとの礼拝です。学生時代に宗教総部主催の夏のワークキャンプに参加したことをきっかけに、共に礼拝を守る機会を得ました。日本ではハンセン病患者は強制隔離され、家族から切り離され、また身元を隠すため偽名を使うなど、到底人権などない環境がここ数年前まで、厳然と法律としても残っていました。その苦しみに会った方々と共に静かな、温かい雰囲気の中で礼拝を守ったことがずっと心の中に残っています。そして、まさにこの方々は確かな救いをクリスマスの中に見ていることを実感しました。今も宗教総部のメンバーが家族教会を訪問していますが、皆さんにもそのような機会が今年のクリスマスにあることをお祈りします。

Merry Christmas.

(高等部教諭)

-
- ◇ランバス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:20～8:40 於：ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)
12月18日(金)クリスマスを感謝して(12/25) 榎 本 てる子
◇総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40～ 於：宗教主事室
-